

安心して医療を受けるために 一人ひとりができること

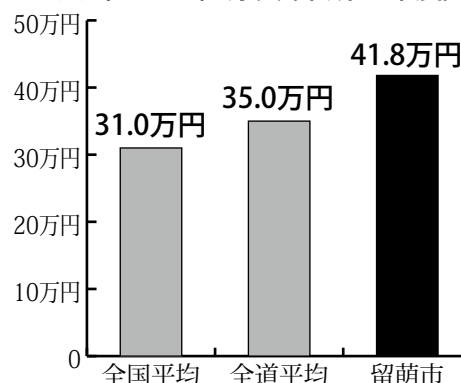
市は、皆さんの健康づくりをさまざまな形で応援しています。その一つとして、国民健康保険(国保)は、定期的な健康診断の受診やジェネリック医薬品の利用促進など、皆さんの身近な医療・健康に関わる取り組みを進めています。市の国保の医療費の特徴を知って、ご自身の健康を守るためにできることを、一緒に考えていきませんか。



1人当たりの医療費は42万円

市の平成24年度の国保1人当たりの医療費は41・8万円で、全国平均や全道平均と比べて高い状態にあります。

●全国、全道、留萌市の1人当たりの医療費(平成24年度)



これは65歳以上の高齢者の加入割合が高いことも要因の一つですが、疾病の特徴にも要因があるようです。

下記の表は、26年5月診療分における市の国保の医療費を疾病別に分類し、上位5位を記したものです。

この中で医療費が最も高く、受診件数の多い疾病分類は「循環器系の疾患」となっていて、中でも1件当たりの医療費が全道平均を上回っている「循環器系の疾患」の特徴的な疾病として、高血圧性疾患や脳梗塞、脳内出血が挙げられます。

●留萌市の国保の疾病別医療費の状況(平成26年5月診療分)

疾病分類	件数	医療費(円)	構成割合(%)	1件当たりの医療費(円)
循環器系の疾患	953	31,839,250	21.0	33,409
新生物	192	25,901,820	17.1	134,905
精神および行動の障害	225	20,603,660	13.6	91,572
消化器系の疾患	633	15,067,960	9.9	23,804
筋骨格系および結合組織の疾患	464	10,352,110	6.8	22,311

※疾病分類上位を抽出しているため、構成割合は100%になりません。
※筋骨格系および結合組織の疾患にはリウマチ、痛風、骨粗しょう症などがあります。

また、「循環器系の疾患」に次いで高い疾病分類は、がんなどの「新生物」となっています。同様に1件当たりの医療費が全道平均を上回っている「新生物」の疾病として、大腸がんや子宮がん、乳がんが挙げられます。

「新生物」による疾病の1件当たりの医療費が高い理由として、薬代が高いことや診療日数が長いこと、そして、手術や入院が多いことが考えられます。

ことば



●特定健康診断(特定健診)とは

生活習慣病といわれる糖尿病や高血圧症、脂質異常症は、最初は症状がなくても心筋梗塞、脳卒中などの重大な病気につながり、生活の質の低下や医療費の増大を招きます。特定健診は、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)に着目してこれらの病気のリスクの有無を検査し、リスクがある方の生活習慣をより望ましいものに変えていくための保健指導を受けていただくことを目的とした健康診断です。

●ジェネリック医薬品とは

先発医薬品(これまで使われてきた新薬)の特許が切れた後に医薬品メーカーが製造・販売する、厚生労働省から「先発医薬品と同等の効能や効果が得られる」と認められた医薬品です。すでに有効性や安全性について先発医薬品で確認されていることから、開発期間やコストを大幅に抑えることで、先発医薬品と比べて値段が安く設定されています。

市民の健康を守るために

平成20年度から始まった特定健診・特定保健指導は、これまでの実施状況や成果を検証・評価した上で、計画を見直し、目標も改めて設定して、25年度から新たに第2期計画期間がスタートしました。

市では、達成しようとする特定健診実施率や特定保健指導実施率を年度ごとに段階的に設定し、計画期間の最終年度の29年度には60%を目標として設定しています。

計画初年度の25年度の実績は、特定健診実施率は31・2%、特定保健

●留萌市の特定健診と特定保健指導の実施率の目標(平成25年度～29年度)

目標	特定健診実施率	特定保健指導実施率
平成25		